

大宮前里神楽



〔指定年月日〕昭和五九年三月三十一日  
〔種別〕無形民俗文化財（民俗芸能）  
〔名称〕大宮前里神楽  
〔点数〕  
〔所有者等〕大宮前郷土芸能保存会

## 大宮前里神楽

旧大宮前新田一帯に伝承されてきた大宮前里神楽は、鎮守春日神社の創建（寛文年間（一六六一〜一六七三））の頃から同社に奉納されていたと言われている。しかし、明治もすぎると頃演者が高齢化したり、他出したりしたため、里神楽の奉納もままならなくなり、大正五・六年（一九一六・七）頃には中絶してしまった。

昭和五〇年（一九七五）、大宮前郷土芸能保存会は、この絶えて久しい由緒ある里神楽の復興を目指し、萩原氏系統の中野（中野区）の菊田保雄氏や相模流の新座市野火止（埼玉県）の石山社中の指導を受け、三年後の昭和五三年（一九七八）元旦には新春初神楽を春日神社に奉納して伝統を復活したのである。以来、大宮前里神楽は春日神社例大祭に奉納されるほか、区内の各種行事にしばしば上演されている。

大宮前里神楽は江戸時代中頃から大正初期まで続いた神楽を復活継承したもので、すぐれた技術と「八雲神詠」「天孫降臨」などをはじめとする豊富な演目を持つ、都内でも有数の里神楽といえることができる。

### 【文化財所在地】

